

学校だより



令和5年2月28日
横浜市立二谷小学校
校長 矢島 孝幸

「ありがとう…自慢の6年生」

学校長 矢島 孝幸

教室を回っていると1年生が昔遊びの練習をしています。「校長先生見て、見て。」と言って、コマを回してくれたり、お手玉のやり方を教えてくれたりしました。私も自分ができるコマ回しの技を1年生に披露しました。歓声があがると思いきや、さほど驚いた様子もなく残念でした。2年生の教室に行くと、自分が得意なことをランキングで表したり、すごろく形式でまとめたりして一年間の成長を振り返る学習を進めています。どちらも学習発表会での発表に向け、意欲的に取り組んでいます。自分の頑張りを保護者に見てもらおうと一生懸命に活動している子どもたちの姿は生き生きしています。学習発表会本番の輝く子どもたちの姿を期待します。同時に一年間の月日の流れの速さを実感します。

さて、6年生は、いよいよ『卒業』に向けてラストスパートを迎えました。先日、6年生と一緒に国会議事堂見学とキッザニアでの体験学習に行ってきました。どの子も小学校生活最後の校外学習を楽しんでいました。もちろん、めあてをもって学んでいる姿もありました。行きのバスの中では、HPで



岸田総理の動向をチェックしてきたという話を聞かせてくれたり、キッザニアで将来の夢の職業体験を楽しみにしているという話を教えてくれたり、この日を楽しみにしていることが伝わってきました。国会議事堂では、静かに見学してとても素晴らしい態度でした。キッザニアでは、事前の計画通りに一人で各ブースを回って学んでいる姿や仲間と一緒に体験している姿があり、改めて素晴らしい

6年生であることを確信しました。さすが二谷小学校のリーダーです。今年度の6年生が見せてくれた立派な姿を5年生が引き継ぎ、さらに二谷小の子どもの目指す姿として繋がっていくことを期待します。卒業する6年生に『凡事徹底』という言葉を送ります（PTA 広報誌のメッセージに記しました）。『あたりまえのことを あたりまえに』をより徹底しようという意味の言葉です。4月から新しい世界での生活が始まります。中学生となり、日々の言動や生活を今まで以上に大人として見られるようになります。少し厳しい社会の中で、周りから認めてもらうためにも『凡事徹底』という言葉を大切にしてもらいたいと思います。二谷小自慢の6年生52名が、いつまでも、どのような世界でも、輝き続けることを心から願っています。これからもきっと活躍することを信じています。

今年度も残すところ一ヶ月となりました。コロナ禍での教育活動も三年が過ぎようとしています。新型コロナウイルスが世間を騒がせ始めたころに比べると、様々な活動を行うことができるようになりました。感染拡大予防対策を考えながら取り組んだことで、新たな内容や方法を生み出すこともできました。来年度からは、それぞれの活動をどのように展開することが、子どもたちにとってより価値があるかを考え、実践していく必要性を感じています。

令和4年度も一年間、学校へご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。令和5年度も教職員が一体となって、子どもたちのために頑張ります。今後ともよろしく願いいたします。